

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1270300740
法人名	社会福祉法人 うぐいす会
事業所名	稲毛グループホーム
所在地	〒 263-0051 千葉県千葉市稲毛区園生町153-1 (電話) 043-207-6556

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	3月18日

【情報提供票より】(20年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 12人, 非常勤 7人,	常勤換算 5.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋耐火構造 4階建ての 3 階 ~ 4 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費22,000円+諸経費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
		1日当たり 1,400 円	1ヶ月当たり 42,000 円

(4) 利用者の概要(12月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲毛病院 ・ 石郷岡病院 ・ 医療法人社団貴和会(訪問歯科事業部)
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4階建て建物の1階には訪問介護事業所と居宅介護支援事業所、2階には通所介護事業所が併設されており、3、4階がグループホームである。4階に上ると、晴れた日には遠く富士山を眺めることもできる高台に位置している。併設のデイサービスセンターが休みの日には、送迎用ワゴン車でドライブしたり、ホームでの入浴が難しい入居者にはデイサービスセンターの機会浴を利用する等、複合施設の利点を生かしている。職員は普段から入居者に覚えてもらえるように、ユニットに関係なく接する機会を多く持つようにしている。また、近隣の幼稚園とも行ったり来たりの交流がある。自治会加入も検討中で、今後ますます、地域に根ざしたホームになることを目指している。新任施設長のホーム運営に対する熱い思いが職員にも伝わり、明るく活気のある雰囲気を感じられる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の課題は運営推進会議への取組と職員の研修体制についてであった。現在自治会への加入を検討しており、自治会を通じて運営推進会議への幅広い参加に繋がりたいと考えている。研修については、年間計画を立て、外部、内部の研修を問わず、参加の機会を作り、全職員がその段階に応じた研修を受けることができる体制が、引き続き望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者の交代に伴う新しい体制が整わなかった事情もあり、職員一人ひとりが自己評価に取り組んで、ユニットごとに主体的な自己評価を作成するにはいかなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回ほどのペースで開催はしてきたが、日程調整がうまくいかないうえ、自治会未加入もあり、地域からの参加者が少ない現状がある。運営推進会議の意義を理解し、年間スケジュールを立て、定期的な開催と幅広い参加者による建設的な意見を求め、サービスの質の向上に繋げることが必要と思われる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、家族の意見、不満、苦情等の表出の場を設けている。しかし、今までに意見箱での意見、苦情等はない。また、面会時には積極的に声をかけをし、家族の話しを聞くよう努めている。現在、家族から職員に名札を付けて欲しいとの要望があり、職員間で検討中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の2つの幼稚園と交流している。来所した園児と共に散歩したり、時には入居者が幼稚園を訪問するなど積極的な交流を図っている。また、散歩の際は声をかけてくれる地元の人も増えている。自治会への加入も検討しており、地域の行事参加などに繋がりたい意向である。

2. 評価報告書 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に法人の理念をベースにし、全職員でホーム独自の理念を作り上げ、それを額に入れ玄関に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和しているが、全職員に浸透しているとまではいえない。		全職員で作り上げた理念でもあり、ケアの拠りどころともなると思われるので、理念を真に理解し、共有する機会を持つことが期待される。それにより、更にサービスの質の向上につながると思われる。
hennkaku					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の2か所の幼稚園と交流している。園児が来所すれば入居者がいっしょに散歩し、また入居者も幼稚園を訪問するなど積極的な交流を図っている。散歩をしていると地元住民から声をかけられることも多くなった。地域交流を深めるため、自治会加入を当面の課題にしており、地域で行なわれる各種行事への参加に繋がりたいという意向である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の交代に伴う新しい体制が整わなかった事情もあり、職員一人ひとりが自己評価に取り組んでユニットごとに主体的な評価を作成するにはいたらなかった。		自己評価・外部評価の意義を理解し、一つひとつの項目を全職員で話し合い評価することは、自らのサービスを振り返り、向上する機会になると思われる。外部評価の結果は全職員で共有し、来年度は職員全員参加のもと、ユニットごとに自己評価が行われることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在、入居者家族の代表、民生委員、地域包括支援センター職員らで構成されている。内容はホームの現状の報告にとどまっている。		運営推進会議は施設の現状を知ってもらうとともに、運営・サービスをより良くするにはどうするか意見を話し合う建設的な場でもある。地域に根ざすホームであるためには地域住民、自治会等の参加が望まれるので、参加への働きかけと、定期的な開催の計画づくりが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の所管課とは入居者についての相談や施設の状況報告を通して、連携を密にしている。市からも、職員がホームを訪問することがあり、情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホームでの様子を、居室の担当職員が毎月、手紙に書いて報告している。入居者が買い物をした際のお小遣い帳も、レシートを添えて一緒に送付している。職員の異動があれば、随時報告している。また、季節ごとに入居者の写真入りの広報を発行し、家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満、苦情を把握するため、面会時には積極的に声かけをし、できるだけ率直な話を聞きだせるよう努めている。玄関には意見箱も設置している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が入居者の誰とでも顔馴染みの関係になれるよう、普段から、受け持ちユニットに関係なく入居者と接する機会を作り、顔や名前を覚えてもらっているため、例え異動があっても、他の職員がカバーして影響が少いようにしている。また、新任職員にはベテラン職員が付いて、入居者の不安を防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行なわれる研修会は、主に常勤職員を対象に日程等が案内されているが、これまで参加した人は少ない。また法人内でも年3～4回、介護技術などの勉強会が実施されているだけである。		外部研修、内部研修を問わず、年間を通じた研修スケジュールを作成し、非常勤を含む全職員がその段階に応じ、必要な研修に参加できる体制づくりが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に加入しているが、あまり参加していない。また、他の事業所との交流もこれからの課題である。		同業者との交流は事業の運営やサービス向上、情報交換のうえで欠かせないものと思われるので、勉強会や相互訪問等を通じ、管理者、職員ともに交流することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設見学には随時応じ、体験入居についても空き室があれば応じている。緊急に入居せざるを得ないような場合は対話を多くして、本人・家族の抱く不安を取り除くようにしている。デイサービスの利用からグループホームの入居につながるケースもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者を人生の先輩として、尊敬の念を持って接している。入居者からは例えば、料理を教わる機会も多い。また、職員が入居者に励まされることもあり、互いに支えあう関係ができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にはホーム独自のアセスメントシートを使って、入居者の思いや意向について家族に記入してもらい、関係者から情報を得るようにしている。しかし、その後の変化に応じての思いの把握については、十分とはいえない。</p>		<p>入居者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、今現在、本人の出来る事、出来ない事、思いや希望、意向の把握に努め、検討することが必要と思われる。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者には担当職員が1名つき、この職員が中心となって本人・家族の意向を確認しながら、ユニットとしての統一ケアを進めている。計画作成担当者は、担当職員からの情報や意見を踏まえ、介護計画を作成しているが、チームでつくるというところまでには到っていない。</p>		<p>アセスメントをきちんと取り、ケアに関わる職員全員で、意見交換やモニタリングができるよう、定期的に会議等の場を持ち、みな意見を反映して、利用者本位の介護計画を作成することが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は計画作成担当者が3ヶ月に1度見直している。日々の気づきについては、申し送りノートに記録しており、職員間の情報伝達はできている。見直しの際も、職員会議等で、チームとして検討する機会があると、さらに良いと思われる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護事業所が併設されているので、送迎用の車を借りて、買物、通院、墓参り等の外出や、機械浴での入浴など、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療については、入居者がこれまでかかりつけにしていた主治医が良いか、それとも往診もしてくれるホームの協力病院にするか、どちらでも選べるようにしている。受診時の通院介助についても、家族と話し合って対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族が病院ではなく、グループホームでの終末を望む場合には、協力病院等の見解も参考にしながら対応の方向を模索している。法人は別の場所で介護老人福祉施設(特養)も運営しており、そちらを紹介することもある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の保護についてはマニュアルを備え、日常の声かけや対応で入居者を傷つけないように配慮している。また個人記録等の保管にも注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日の流れはあるが、入居者には買い物や散歩などの希望もあり、できるだけ一人ひとりの状態や意向に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物に行くこともあり、準備も入居者と職員が一緒に行っている。後片付けや食器拭きなど、入居者の役割は多い。また、食事中はテレビを消して、ゆっくりと食事ができるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は平均週2～3回で、入居者のその日の気分や体調などを確認したうえで、できるだけ気持ちに沿った入浴支援ができるように努めている。また、普通の浴槽では入浴が難しい入居者には、デイサービスセンターにある機械浴を利用してもらうなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや後片付け・掃除など、日常の中で、一人ひとりの役割や楽しみごとを作るように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買出しのほか、天気の良い日には近くの神社まで散歩に出かけたりしている。併設のデイサービスセンターの車で外出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスセンターとの共用の正面入り口、ホームのある3階、4階の玄関は施錠していないが、エレベーターのボタンは隠されており、入居者が自由に外に出ることは出来ない状況である。		エレベーターのボタンを隠すにしても、職員の忙しい時間に制限する等、職員の見守りで、対応する工夫が期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・災害時のマニュアルがあり、消防訓練も定期的に行われている。自動通報装置やスプリンクラーも完備しているが、ホームは3階、4階にあり、特に夜間の人手がない時間帯の避難に不安がある。		特に夜間は、地域住民の協力が不可欠と思われるので、運営推進会議等を通じて、日頃から協力を得られるような働きかけをすることが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立をつくり、大まかな摂取量を把握し記録している。また、水分については、食事やお茶の時間で確保するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・ダイニングは日当たりがよく、見晴らしのよい場所にソファが置かれている。全体的に家庭的で暖かな雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や思い出の品などが思い思いに持ち込まれ、一人ひとりが、自分らしい部屋づくりをしている。		